

進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	商学研究科
大項目	6 教育内容・方法・成果
中項目	6.3 教育方法
小項目	6.3.1 教育方法および学習指導は適切か。
要素	教育目標の達成に向けた授業形態（講義・演習・実験等）の採用 履修科目登録の上限設定、学習指導の充実 学生の主体的参加を促す授業方法 研究指導計画に基づく研究指導・学位論文作成指導（院） 実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導（専院）
小項目	6.3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。
要素	シラバスの作成と内容の充実 授業内容・方法とシラバスとの整合性
小項目	6.3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。
要素	厳格な成績評価（評価方法・評価基準の明示） 単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性 既修得単位認定の適切性
小項目	6.3.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
要素	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 各専門分野の履修体系、より具体的には何が学べ、何ができるようになるかを入学時に明示する。	→各専門分野からのヒアリングとその成果を入学時オリエンテーションでの反映。	B
2. 他大学院、他研究科との単位互換制度を踏まえて、多様な履修、研究の機会があることを在学生に対して周知する。	→他大学院、他研究科での履修者数の増加。	B
3. 履修登録前に授業内容をより詳細に周知する。	→履修登録に際しての指導教員との事前（各学期開始前）面談、およびシラバスの標準化。	C

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

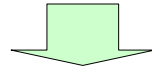
《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆ 小項目6.3.1	(現状説明) 法人による極端な予算削減により『履修案内』の印刷すら困難な状況にある。今年度より従来の製本が不可能となり、きわめて貧相な装丁の冊子となった。オリエンテーションについては、新入生向けに教務学生委員より教育内容等についての説明を入念に行った。とくに留学生の増大に伴い、日本語による修士論文の作成に向けて入念な研究計画を立てるよう指導した。
☆ 小項目6.3.2	(現状説明) シラバスは作成されているが、商学研究科の場合、研究領域が多様であり、その結果、履修者の専門知識の度合いが一律ではなく、必ずしもシラバスどおりの講義を行うことが望ましいとは言えない。
☆ 小項目6.3.3	成績評価と単位認定は適切に行われている。
☆ 小項目6.3.4	各学期末において学生による授業評価を実施し、必要に応じてこれを教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけている。
☆ その他	

◎効果が上がっている事項

【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

小項目6.3.1	
小項目6.3.2	
★小項目6.3.3	
小項目6.3.4	授業評価は定着しつつある。
その他	



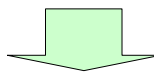
【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

小項目6.3.1	
小項目6.3.2	
★小項目6.3.3	
小項目6.3.4	
その他	

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項

小項目6.3.1	最低限の配布物を作製できるだけの予算が必要である。
小項目6.3.2	履修者の質を均質化することは困難であり、シラバスから多少外れても教育内容を適宜変更することが必要である。
★小項目6.3.3	
小項目6.3.4	
その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

小項目6.3.1	法人に予算の増額を要求する。
小項目6.3.2	オリエンテーションにおいて履修の際に、できるだけ担当教員と事前に面談をするように勧める。
★小項目6.3.3	
小項目6.3.4	
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★その他 (自由記述)	2009年度末に目標を設定したところであり、この4か月弱の間になしうる改善はすべて行われている。また、この間に新たに改善すべき事項は発生していない。
----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

【学外委員】

○6.3.2の「現状説明」および「改善すべき事項」の記述は、第三者には理解しがたいところがあります。シラバスの記述は、学生に対して授業への導入の役割を果たすものなので、それと授業内容が異なるとしたら、教育の体系性が損なわれることになるのではないのでしょうか。

【学内委員】

○自己点検・評価は、本学の状況や考え方を社会にわかり易く説明する役割もあります。また、認証評価につなげることも視野に置く必要があります。加えて、本シートを見ればある程度のことわかる必要があります。そのためにも、全小項目についてももう少し詳しく現状説明されることを希望します。

○小項目6.3.2の現状説明において、シラバスの現状（内容や作成率など）についての説明を希望します。

○6.3.1no項目の現状説明は当該小項目の内容と、一致していません。

○小項目6.3.3の現状説明は、もう少し詳しい記述が望まれます。

○「改善すべき事項」の記述については、この事項に対応するものとして適切な内容かどうか疑問です。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★「現状説明」6.3.3：夜間主で社会人を対象としたマネジメントコースを経営戦略研究科に発展的に移譲して以降、多くの授業は1～5名程度の履修者となっているが、その分、教育や成績評価に関して教員の学生に対する目は行き届いている。また、学期末には通常の試験、またはレポート試験が厳正に実施されており、その結果、成績評価と単位認定も適切になされている。

Ⅴ. 本項目の評価指標

<全学的な指標>

6.3.0.S1	大学院生の論文件数(査読制の雑誌と学内紀要等に分ける)
6.3.0.S2	履修者数規模別の授業科目数(少人数・中人数・大人数)
6.3.0.S3	少人数授業の授業形態の調査
6.3.0.S4	規模別講義室・演習室使用状況
6.3.0.S5	マルチメディア教室の稼働率
6.3.0.S6	遠隔授業を活用した授業の比率
6.3.0.S7	学生の授業評価におけるシラバスの有効性に関する質問への肯定的な回答の比率
6.3.0.S8	定期試験の問題の適切性を検討する会議・委員会の有無と開催頻度
6.3.0.S9	一括申請による教職免許状取得件数および取得者実数
6.3.0.S10	日本学術振興会特別研究員応募者の有資格者に占める割合
6.3.0.S11	各年次セメスターごとの履修単位数制限の状況
6.3.0.S12	成績評価の分布が適正な科目(平均点が70-75点)の比率
6.3.0.S13	GPA値(全学、学部別、男女別など)
6.3.0.S14	履修者別開講科目数・1科目当たりの履修者数
6.3.0.S15	学生の授業評価におけるシラバスの有効性に関する質問への肯定的な回答比率(大学、学部別、授業形態別)
6.3.0.S16	オープン授業(授業公開)の全授業における割合
6.3.0.S17	学生の授業評価の実施率(全学、学部別)
6.3.0.S18	学生の授業評価における当該授業への満足度に関する質問への肯定的な回答比率(大学、学部別、授業形態別)
6.3.0.S19	在学生のうち、授業をまじめに評価したと思う学生の比率
6.3.0.S20	在学生のうち、学生による授業評価アンケートの実施が授業を変えるのに役立っていると思う学生の比率
6.3.0.S21	卒業生のうち、大学時代に学んだことや経験(キリスト教関連科目)が、現在の生活に役立っていると思う人の比率
6.3.0.S22	卒業生のうち、大学時代に学んだことや経験(語学)が、現在の生活に役立っていると思う人の比率
6.3.0.S23	卒業生のうち、大学時代に学んだことや経験(一般教養的な授業)が、現在の生活に役立っていると思う人の比率
6.3.0.S24	卒業生のうち、大学時代に学んだことや経験(専門科目)が、現在の生活に役立っていると思う人の比率
6.3.0.S25	卒業生のうち、大学時代に学んだことや経験(ゼミ)が、現在の生活に役立っていると思う人の比率

<個別的な指標>
